



はじめのいっぽ 令和2年度 11月号

令和2年10月30日
幼保連携型認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

全国的にコロナ陽性者数が減少せず、「三密」を考慮した過ごし方に創意工夫しています。

「秋！」最高に心地良い季節がやって来ました。

出来るだけ屋上園庭に出て、秋空の下で遊んでいます。うろこ雲や飛行機雲などを楽しみながら、人工芝の上で思いきり清々しい空気を吸っています。

「おむすびデー！」は、2歳児・3歳児共に食欲の秋を満喫していました。



冬に向かいます。健康管理をしっかりと行い、一日一日の成長を楽しく噛みしめながら2020年の締めくくりに致します。



～ アドラー より ～

賞の望ましくない効果

1. 賞を目的に行動するようになる

たとえば子どもがテストでいい点をとってきたとしましょう。親がこの子をほめてあげたり、あるいは賞になにか買ってあげたりすると、どんなことがおこるでしょう。子どもは次のテストでもいい点をとろうと、がんばって勉強するようになるかもしれませんが、しかし、このとき子どもは、勉強して賢くなることよりも、賞をもらうことを目的に行動するようになっています。これでは、勉強することの必要性をいつまでたっても子どもは理解できませんし、勉強する楽しさに目覚めることもありません。

2. 賞をもらえないとわかると、適切な行動をしない

こどもが賞を目的に行動するようになると、賞をくれる人がいないとか、いても賞をくれないことがはっきりわかっているとかすると、適切な行動をやめてしまいます。また、「ごほうびをくれたらするけど、くれないのならない」と、賞を駆け引きの材料に使うようになるかもしれません。

3. 賞が次第にエスカレートする

3歳の子どもはアメ玉1個でも喜ぶかもしれませんが、高校生になるとバイクでも賞にしないと行動しなくなるかもしれません。

4. 結果ばかり重視するようになる

結果がよければ賞をもらえるわけですから、子どもは「結果さえよければいいんだ」と思うようになり、安易な手段、あるいは反社会的な手段で、結果だけ手に入れようとするようになるかもしれません。「ごほうびをもらうためには、手段は選ばないぞ」と思うようになるのです。

5. はじめからあきらめてしまうかもしれない

あるいは、結果が悪そうだと予測すると、「どうせごほうびはもらえないんだから」と、はじめから投げ出して手をつけないかもしれません。